

川口市こども夜間救急診療所を視察

保健医療・高齢者等福祉対策特別委員会より

1月6日(木)保健医療・高齢者等福祉対策特別委員会が開催されました。議題は以下の通りで内容についてお知らせ致します。

1. 生活支援体制整備事業に係る電子システムの導入について

高齢者一人ひとりが、住み慣れた地域で医療・介護・予防・住まい、生活支援などのサービスを利用することができる仕組みに取り組む中で、介護保険サービスのほか、地域で行われているサロンや運動・体操教室などの通いの場、生活支援サービス等の情報を住所やカテゴリー、条件などから簡単に検索でき必要な情報を分かりやすく探することができるシステムをインターネットで公開する事業です。2020年9月からの稼働を目指しています。

2. 緩和ケア病棟の整備について

高齢化に伴い市内においても、がん患者は増加傾向にあり、がんと診断された時から始まる患者や家族の様々な苦痛のケア体制を構築するために、医療センターに6月～9月の工期予定で緩和ケア病棟を整備(個室18床)するとの事です。

3. 小児夜間診療体制の整備について

現在、小児夜間診療は当番医制で実施していますが、年間を通して診療を行う拠点として鳩ヶ谷庁舎内に「川口市こども夜間救急診療所」を設置することになりました。

開設は4月1日からで小児科(0歳～中学3年生まで)専門(夜間の急な発熱や腹痛などの内科症状が対象)です。開所時間は平日:午後7時～午後11時、土日、祝日及び年末年始:午後5時～午後10時までとなります。

安心安全な子育て環境の充実や市民の利便性向上に寄与するものと感じました。



「原水爆の被害者は わたしを最後にしてほしい」

その言葉を受け継いで 3・1 ビキニデーを成功させましょう



問 3・1 ビキニデーとはなんですか？

答 1954年3月1日未明、アメリカは太平洋ビキニ環礁において広島型

原爆の約1000倍の威力をもつ水爆実験(ブラボー)をおこないました。

この核実験によって、マーシャル諸島の人びとや多くの日本漁船などが被災しました。焼津のマグロはえ縄漁船「第五福龍丸」は、アメリカ政府の指定した危険区域外で操業中であつたにもかかわらず、“死の灰”を浴び、23人の乗組員全員が急性放射能症にかかり、無線長の久保山愛吉さん(当時40歳)は「原水爆の被害者はわたしを最後にしてほしい」と言い残してその年の9月に亡くなりました。その言葉を受け継いで3・1 ビキニデーとして運動が続けられています。

問 核廃絶の運動に大きな影響を与えたのですか？

答 この3・1 ビキニ事件は、日本国民に大きな衝撃をあたえ、広島・長崎をくりかえさせるなど、全国に原水爆禁止の声がまきおこりました。3000万筆の原水爆禁止署名が集められ、翌55年8月に第1回原水爆禁止世界大会が開催されました。原水爆禁止日本協議会(日本原水協)はその年の9月に結成されました。いらい、58年間、日本の原水爆禁止運動は、核戦争阻止、核兵器廃絶、被爆者援護・連帯をいっかんしてかかげ、世界諸国民や非核国政府と連帯して、世論と運動をひろげてきました。いまや核兵器廃絶は世界の大きな流れに発展しています。

問 2020年は核兵器廃絶にとって大切な年と聞きましたが？

答 3・1 ビキニデー集会は、この久保山さんの遺志をひき継ぎ、原水爆禁止運動になう全国の運動と静岡県の実行委員会が共催してきた伝統ある行事です。4月の原水爆禁止世界大会ニューヨーク、8月の原水爆禁止世界大会にむけて内外での広範な共同を呼びかける場となります。日本共産党市議団としても参加します。